

アメリカ滞在記 ⑤
ワシントンDC・フロリダの旅

霧野萬地郎

▼アメリカ東海岸をNJの自宅より車で南下しペンシルベニア、ワシントンDCからバージニア、メリーランドなどへ数泊の旅も忘れ難い。95号線で、先ずはNJの州都トレントン、そして、フィラデルフィアへ至る。ここでは独立宣言の起草が行われた州議事堂(現在のアメリカ独立記念館)などがある。新都ワシントンが造られる1800年まで10年間はここが首都であった。フィラデルフィア美術館前では、映画『ロッキー』の主人公が駆け上がった階段は「ロッキー・ステップ」と呼ばれ、観光客はここでポーズをとっている。ロッキーの不屈な生き様はアメリカ人の心を燃え立たせるのだ。



フィラデルフィアの自由の鐘

更に南下してのワシントンDCは当初から首都機能を持つ都市として創られた。お馴染みのホワイトハウスや国会議事堂、ペンタゴンなどを眺めて、スミソニアン航空博物館に入れば、リンドバーグが大西洋を横断したスピリット・オブ・セントルイス機や月面到着のアポロ11号司令船など膨大なこの国を誇る展示に圧倒される。世界をリードする若い国の自信に満ちた展示なのだ。

JF・ケネディーの眠るアーリントン墓地やバージニア州のG・ワシントンの旧家なども近くにあり大切に管理されている。(アーリントン墓地にて)

夕時雨その遺志と火は燃え続け

DCから南のバージニア州のウィリアムズバーグを訪ねた。1632年に要塞として建設され、イギリス植民地時代の1699年から1780年までバージニア植民地の首都として機能した。そして、独立後はバージニア州からは初代のG・ワシントンを始めジェファソンなど8人の大統領を輩出した。南北戦争では内部分裂して、北軍側はウエス

トヴァージニア州として分離独立した。市内にある旧バージニア植民地を再現したコロニアル・ウィリアムズバーグでは往時の雰囲気味わった。1983年には、ここでG7首脳会議が開催されて注目を浴びていた。

(コロニアルウィリアムズバーグにて)

丸木小屋。パッチキルトの蒲団掛け

ペンシルベニア州のアーミッシュ村も忘れ難い。厳しく聖書の戒律を守る住人達だけで生活している。現代技術

による機器を生活に導入することを拒み、近代以前の生活様式を基本的に農耕や牧畜を行い、自給自足の生活を営んでいる。服装は質素で、電気も自動車も使わない。観光客用に蜂蜜などを販売していた。訪ねた12月には、観光客相手のサンタクロースの馬車もあって、それに乗せてもらった。

(アーミッシュ村にて)

乗りなれた馬車を使ってサンタ来る



アーミッシュ村にて

▼一週間かけてフロリダ半島をレンタカーで一周した。フロリダ州は北部と中部が亜熱帯、南部は熱帯に属し、この州で登録した車のプレートには「サンシャイン州」というニックネームが表示されている。

旅の始めは、半島北部のオーランド空港からデイズニワールドでゆっくりと遊ぶ。エプロットセンターも含めて子供も大人も楽しめる巨大な遊園地だ。加州アナハイムの最初のデイズニワールドに次いで造られたデイズニワールドは実験的未来都市(EPCOT)を目指したが、湿潤地による造成の難しさがあり、更に完成を待たずに創業者のW・デイズニーが亡くなり、完成が危ぶまれたが、遺志を継いだ兄のO・デイズニーが完成させて、東海岸の一大観光地となった。

ケネディ宇宙センターはオーランドから車で約一時間にあり、ここも観光スポットだ。広大な敷地を専用のバスに乗って巡回する。丁度、スペースシャトルが発射台に取り付けられていた。巨大なキャタピラが発射場へ進んだ跡が生々しい。野外展示場では、宇宙へ飛ばした多くのロケットの現物がそのまま

置かれ、触れる事も出来る。この広大な土地の周囲には野生動物の保護の森がある。そこで幸運にも国鳥の白頭鷲を目に出来た。



ケネディ宇宙センターを出て、メイン州から続く東海岸沿い95号線

を走ってフロリダ南部のマイアミへ入る。富める大都市と云った感じだ。ここは多くの富裕層や年金生活者が悠々と暮らしている。

マイアミはヒスパニック系が多く、人口の5割を越える。スペイン語が英語と同じように通じる。19世紀末の米西戦争で勝利した米国は大陸での領土拡張を図り、海への膨張をも進めた。カリブ海のプエルトリコ、太平洋のミッドウェイ、ハワイ、そして、フィリピンなどを次々と領土とした。

また、マイアミにはキューバ革命前後に脱出した旧バチスタ政権の上層部の人達も多く住んでおり、豊かな町作りに貢献した。

この町には名物ストーン・クラブ(石蟹)料理がある。硬い殻の爪を木槌で叩き割り、その爪だけをレモン果汁をかけて食べる。とても美味しい。生きたまま爪を取られた蟹は、海水に戻せば、蜥蜴の尻尾の様に数年後にまた爪を付けると云われる。

翌日はフロリダ半島の南端に広がる世界遺産エバーグレーズ国立公園を走る。広さは四国の約1.5倍の熱帯の湿原地帯で、水深30cm程の浅瀬を草が一面に覆う。その広大な湿地帯は様々な野生の動植物の宝庫だ。ワニが動かぬままに水面から顔を出していた。展望台から草の海を眺めたり、湿原の木道をゆっくり歩き沼沢の心地よい風に吹かれた。そのままフロリダ半島の東側を北上し、タンパ空港でレンタカーを返して、まだ寒さの残るNJに戻った。

春光や打ち上げを待つ宇宙基地

木頂に白頭鷲の巢の動き

鱧の伏す水辺の草のはや青む

続く